

toVO トヴェ
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 7

No.079 - 100号まで、残り21家族、21ヶ月



NO. 079

20181011

おもりの100家族、わたしたちのこれから



今号（80 家族目）のご家族 ▶

田邊 慎一郎 さん・文敬 さん（父）・麻美 さん(母)

撮影場所 ▶ レストラン Tera（青森市）

【インタビュー】

●2011年3月11日のことは覚えていますか？

▶慎一郎さん「ランチ営業をやっていて、それで、ランチが終わって休憩時間で休憩してるときに揺れ始めて、地震は嫌いじゃないけど、今回は長いなと思った。長いなと思ったから棚にあるグラスが落ちないように

押さえて、でも、落ちることもなくて、そんなに大事になるなんて思ってなかったんだよね。ちょうどその日の夜に予約も入っていて、真っ暗な状態だったんだけど、お客さんもチラホラ来て『営業するんですよね？』と来ちゃって、でも、電気もなくてどうしよっかなって。」

▶麻美さん「でもね、口ウソつけてやろうかなって思ったの、私。」

▶慎一郎さん「ただ3月で寒くて、暖房がつかなくて、それでも良ければと、一瞬思ってたんだけど。」

▶麻美さん「それくらい、そんな酷いことになってるとは思わなかった。」

▶慎一郎さん「予約で来たお客さんにパーティーコースとかの食材を準備しちゃってたんだけど、ガスとかも使えなかったから、お客さんにパンとかサラダとかはお出しして。」

▶麻美さん「そう、来てくれたお客さんが『夕方になって、もうコンビニとかに何もありません。』って言っていて、その人たちにパンを分けてあげた。そしたら、そのお客様が数ヶ月後に『あの時、私、パンを頂いてすごく良かった』と言って、うちでまた宴会やってくれたの。」

▶慎一郎さん「地震が起きた瞬間は、そんな何日間もかかるとは思わなかったけど、電気だけは早く復旧して欲しいなと思った。」

▶麻美さん「でもね、隣の高いビルからはいっぱい人が駐車場に降りてきて、女の人たちがみんな泣いてましたよ。きっと高いところは大きく揺れたんだろうね。」

▶慎一郎さん・麻美さん「それでもけっこう淡々としてたよね？私たちはね。」

▶文敬さん「お父さんは、車で家に帰る途中で、スーパーに向かって走っていたら急に車のハンドルが効かなくなるっていうか、重くなるっていうか、変だなと思って走ってたんだけど、ちょうど信号が赤になったから停まったの。そしたら、電線揺れてて、スーパーから人がいっぱい出てきてて、あー地震なんだなと思った。家の中も物が落ちてたらダメだなと思って帰ったんだけど、何も落ちてないのさ、だからまさかね、そんな大きい地震だったとは思わなかった。その後、電話がきて『停電になっちゃったけど、お店やるから明かりを探さなきゃダメだ。』と言われて、なかなか売ってなくて、口ウソ買うにも、それなりに大変なもんだなと。そういえば思っ

●震災後で何か変わったことはありますか？

▶慎一郎さん「一番大きいのはメニューを立て直して、今まで8年間火鍋をメインにやっているけれど、それを食べるイイきっかけになったかな？マイナスの面じゃなくて。それまでは人を雇ってお店をやっていたんだけど、今後どうなっていくかわからない状況だったから、家族でお店をやろうって思ったところかな。」

▶文敬さん「震災で、食べ物的大事さを知らず知らずのうちに教えられたっていうのはあるかな。放射能のことも気にするようになった。」

▶麻美さん「地震後すぐのときには福島のもは避けよう、お客さんにも出すのやめようと思ってたけど、今は福島の桃が大好き。なんでも食べる。全然気にしない。」

▶慎一郎さん「特に生活のリズムが大きく変わることもなくて、面白い話も何もなくて申し訳なくて、うちの家族は淡々として動じないかな。」

▶麻美さん「いとはね、毎日布団のそばにヘルメットと長靴を置いてて、震災の後ず〜っと続けてるって。」

●10年後のご家族のイメージは？

▶麻美さん・慎一郎さん「黙ってても死ぬから。俺も死ぬかも知れないし。」

▶慎一郎さん「子供さんとかがいる家族とかだったら、もっと考えることあると思うんだけど、そうだな...、地震があったんだけど、今回の震災に関してはそんなに影響はなかったんだけど、何かあったとしてもわりと忘れっぽい家族なんだよな。あんまり大事にとらないかな。」

▶麻美さん「何とかなるや精神で生きてきてるから、バタバタしない。みんな死ぬ時、独りで生きるのは怖いから、みんなが死んだら、自分も死にたい。何かの備えをして自分だけ生きようとは思わないの。田邊家はこれまでも柔軟に生きてきたし、これからも変わらず気持ちを明るく持って、柔軟に生きるっていうくらいかな。」

【取材後記】今回取材させて頂いたレストランTeraのシェフ田邊さんとは、3年ほど前にある雑誌の記事を偶然見て思い切ってお店に訪れてお話をさせて頂いたのがきっかけで、今回は取材にご協力いただきました。話をするほどに面白い経験がどんどん出てくる人で、どうしたらそんな風な人格が出来上がるのかな？なんて思っていました。今回、お母様の麻子さんとゆっくりお話することができて、慎一郎さんがあるのは麻子さんがあってのことなんだなと妙に納得しました。何かが起こったからといって慌てて生活を変えるんじゃなく、普段から自分の中に芯をもって柔軟な考え方で生活していくことの大切さをインタビューを通して勉強させて頂きました。変わることが必要な時、変わらなくても良いこともあるんだなとしみじみ感じました。(今号No.079のインタビューと撮影：赤石嘉寿貴)

【寄付総額】2011年6月～2018年8月29日まで「¥6,746,747」を、あしなが育英会「あしなが東日本大震災遺児支援募金」へ寄付することができました。ご支援に深く感謝致します。

【定期購読のご協力を!】1年間の定期購読を承ります。1,800円(送料・寄付含)／1年間(12号)です。このフリーペーパーは定期購読の皆様のご支援で発行されております。ご支援の程、宜しくお願ひ致します。ご希望の方は、ウェブショップ (<http://shop.tovo2011.com>) よりお申し込みください。